

# CXエージェント・リリース・ノートv2.2


## 内容

---

### はじめに

CX Agent v2.2が利用可能になり、お客様は非コントローラ・デバイスをCX Agentに追加できるようになりました。ソフトウェアのダウンロードページにアクセスして、最新リリースをアップグレードまたはインストールします。CX AgentとCX Cloud Portalが更新され、直接接続されたCampus対象デバイス ( Cisco Catalyst Centerに接続されているデバイスと同様 ) に、収集とテレメトリの洞察を提供するようになりました。CX Agentは、Cisco Catalyst Centerに接続できないレガシーのキャンパスデバイス、およびCisco Catalyst Centerに接続していないCisco Catalyst Centerに適格なキャンパスデバイスからテレメトリの洞察を収集します。次のリリースノートでは、CX Cloud Agent v2.2の主な機能について詳しく説明します。

---

 注：このドキュメントでは、「非コントローラ」という用語はCXエージェントによって収集されるその他の資産を指します。

---

サポート対象製品リストを更新して、非コントローラ製品ファミリを追加

サポート対象製品リストが更新され、次のCX Cloud Agentサポート対象製品ファミリが追加されました。

- Cisco 1000 シリーズ サービス統合型ルータ
- Cisco 1900 シリーズ サービス統合型ルータ
- Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータ
- Cisco 800 シリーズ ルータ
- Cisco 900 シリーズ サービス統合型ルータ
- Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ
- Cisco Catalyst 1000 シリーズ スイッチ
- Cisco Catalyst デジタル ビルディング シリーズ スイッチ
- Cisco Catalyst IE3200高耐久性シリーズ
- Cisco Catalyst IE3400高耐久性シリーズ
- Cisco Catalyst マイクロスイッチ

-Cisco Industrial Ethernet 3010 シリーズ スイッチ

CX Cloud Agentは、Cisco Catalyst Center製品ファミリもサポートしています。

## キャンパス資産のダイレクトデバイステレメトリ収集

Campus Success Trackを利用したCX Cloudのお客様は、CX Agentを通じてデバイスを直接収集し、デバイスに関するテレメトリの情報を表示できるようになりました。

## CX Cloud Agentへのデバイスの接続

CX Cloudが更新され、Campus NetworkデバイスをCX Agentに接続する方法が2つになりました。

-シード ファイル

-IP の範囲

シードファイル(.csv)オプションを使用すると、最大10,000台のデバイスを簡単に追加できます。このテンプレートを使用するには、テンプレートをダウンロードして必要な情報を入力し、CX Cloudにアップロードします。

IP範囲を使用すると、CXエージェントは、互換性のある一連の特定のデバイスからテレメトリデータを検出および収集できます。ユーザーは、特定のIP範囲を指定するか、またはワイルドカードを使用してIPアドレスの一部を置き換えて範囲を作成することにより、デバイスを追加できます。例：172.16.\*.\*では、172.16.0.0/16サブネット内のすべてのデバイスに資格情報を使用できます。

## インベントリスキャンの編集

CX Cloudが更新され、管理者は非コントローラデバイスのインベントリスキャンを編集できるようになりました(Data Collection > Admin Settings)。これにより、ビジネスニーズに基づいてスケジュールを調整できます。管理者によって追加された非コントローラデバイスは、データ収集ウィンドウに表示されます。

## 診断スキャンの管理

CX Cloudが更新され、管理者は新しい診断スキャンをスケジュールしたり、非コントローラデバイスの既存の診断スキャンを編集して、デバイスに影響を与える可能性のある問題を特定できるようになりました。さらに、スケジュール済みスキャンの詳細ページのCisco DNA Centerドロップダウンリストの名前がデータソースに変更されました。

## データソースページの非コントローラデバイスの表示

CX Cloudが更新され、Data Sourcespageに非コントローラデバイスが個別に表示されるようになったため、管理者は非コントローラデバイスが到達可能か到達不能かを確認できます。

## ソフトウェア候補と詳細の表示

CX Cloudをご使用のお客様は、コントローラ以外のデバイスを表示して、以前は利用できなかった製品ファミリにアクセスできます。また、CX CloudのInsightsタイルの下にあるSoftware Groupsタブが更新され、次の変更が加えられました。

– コントローラおよびコントローラ以外のマネージャの名前を表示する、Managed Byというタイトルの新しい視覚的フィルタが追加されました。名前の上にカーソルを合わせると、管理されているアセットの割合が表示されます。

- Software GroupテーブルのSourceカラムの名前がManaged Byに変更されている。

- Cisco Catalyst Centerは、すべてのコントローラ管理対象デバイスのManaged Byカラムに表示され、CX Cloud Agentはすべての非コントローラ管理対象デバイスに表示されます。

## 非コントローラデバイスのデバイスのクラッシュとリスクの表示

CX Cloudのクラッシュしたアセットとクラッシュリスクページが更新され、デバイスのクラッシュや他のアセットのクラッシュリスクを確認できるようになりました。これにより、ユーザは非コントローラデバイスの健全性に関する洞察を得ることができます。さらに、Sourcecolumnは、両方のページのCrashed Assets and Crash Risk tablesでManaged Byinという名前に変更されました。

## Syslogの有効化

CX Cloud Insightsを使用すると、非コントローラデバイスがCX Cloud Agentにsyslogと障害を転送するように設定できるため、障害メッセージの表示、ケース作成、非コントローラデバイスの電子メール通知を実行できます。

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。